

## 助成概要 ※助成内容詳細はホームページをご覧ください。

### 一般

概要	学校が設定する自由なテーマでの研究計画を募集しています。掲げたテーマに対し組織的にアプローチし、成果を上げることを期待しています。
助成内容	1年間の研究に対し1件あたり <b>50万円</b>
助成件数	<b>60件～70件程度</b>
応募資格	小学校・中学校・高等学校、特別支援学校、教育研究グループ、教育委員会・教育センター・教育研究所 ※在外教育施設を含む

### 特別研究指定校

概要	学校が抱える普遍的なテーマについて、モデル的に取り組む学校を募集しています。全校体制で継続的に取り組んでいただき、そのプロセスや成果についても広く公開していただきます。
助成内容	・2年間の研究に対し、1件あたり <b>150万円</b> ・期間中6回程度、財団が指名する大学の研究者による訪問アドバイス
助成件数	<b>3～5件程度</b>
応募資格	小学校・中学校・高等学校、特別支援学校 ※在外教育施設を除く



ICTを活用した校内研究の推進を応援します!

## よくある質問

### Q1. 昨年ほどのくらい応募がありましたか?

A. 「一般」「特別研究指定校」合わせて、341件の応募があり、そのうち77件が採択されました。

### Q2. (県、市など) 他の研究指定や助成を受けていますが、応募できますか?

A. 問題ありません。応募が可能です。アウトプットにおいては、本助成における取り組みや成果をできる限り切り分けてください。

### Q3. 複数校の教職員でグループを作り、研究を行なっています。研究グループでの応募はできますか?

A. 「一般」については、教育委員会、教育研究所・教育センターあるいは、研究代表者の所属校などの公的機関の推薦が得られ、研究の責任者・活動拠点が明確であれば応募が可能です。ただし、「特別研究指定校」は、学校単位での応募になりますので、研究グループでの応募はできません。

### Q4. 「一般」と「特別研究指定校」を同時に応募することはできますか?

A. 重複して応募することはできません。応募資格、助成内容をご確認いただき、いずれかをご選択ください。

### Q5. 初めて応募するので申請書の書き方がわかりません。

A. 毎年、半数以上が初応募の団体です。申請書の書き方や応募のステップについては「パナソニック教育財団」のホームページに詳しい情報がございますので、ぜひご一読ください。

### Q6. ICTの活用は授業での活用に限られますか?

A. 学校課題の解決にICTを効果的に使うのであれば、授業での活用である必要はございません。今までにも校務や学習評価にICTを活用したり、情報発信の手段として活用するなど、様々な事例がございます。ぜひ過去の助成先の研究課題をホームページでご覧ください。

## 応募方法

申請はインターネット限定です。パナソニック教育財団ホームページから応募いただけます。詳細は、下記ホームページに掲載している応募要項をご確認ください。



<http://www.pef.or.jp/school/grant/entry>

## 応募受付期間

2018年12月1日(土)～  
2019年1月21日(月)

結果発表 2019年3月中旬

助成金贈呈式 2019年4月下旬

## お問い合わせ

### 公益財団法人 パナソニック教育財団

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門1丁目1番10号 第2ローレルビル6階

☎ 03-5521-6100

📠 03-5521-6200

ICT活用についての事例やヒント、先生方に役立つ情報も紹介しています。ぜひ一度ご覧ください。

🔍 パナソニック教育財団

<http://www.pef.or.jp>

## 第45回 2019年度

# 実践研究助成募集案内

応募  
受付期間

2018年12月1日(土) ▶ 2019年1月21日(月)

主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組みたい!  
子どもたちの学力・能力を伸ばしたい!

一般 (1年間)

50万円 × 60～70件程度

特別研究指定校 (2年間)

150万円 + 訪問アドバイス (計6回) × 3～5件程度

後援: 文部科学省 / 全国都道府県教育長協議会 / 全国連合小学校長会 / 全日本中学校長会 / 全国高等学校長協会 / 海外子女教育振興財団

公益財団法人 パナソニック教育財団



# ICTを活用してこんな研究に取り組みました。

44年間で  
3,045件の  
助成実績!

下記の二次元バーコードをスマートフォン等で読み込むと、各校の研究についての報告書や発表の様子が掲載されている財団のホームページを閲覧いただけます。

CASE

1

茨城県古河市立上大野小学校

## 21世紀型学力を身に付ける学習活動に関する研究

プレゼンテーションの実践で思考力・判断力・表現力の向上を



次代を担う児童にとって、伝える能力とその基盤となる思考力・判断力・表現力は不可欠なものである。本校ではタブレット端末を活用し児童にプレゼンテーションを行わせ、PDCAを回すことで、それらの能力を身に付けることを目指して2年間の実践に取り組んだ。期待していた児童の資質の向上に加え、教員のICT活用スキルの向上も成果として得られ、次のテーマも顕在化してきた。



CASE

2

兵庫県 篠山市立丹南中学校

## ICTを活用したアクティブ・ラーニング

「予習動画」を活用した「反転授業」で主体的な学びへの転換



一般助成(市教育会)の「家庭学習での予習を習慣化すれば、学習意欲が高まる」との成果を受けて、独自作成の「予習動画」を活用した「反転授業」を実践。生徒自ら主体的に学ぶとする意欲を持たせ、同時に講義形式の授業デザインの変革にも取り組み、生徒の学力向上を目指した。結果、生徒の学習意欲や学力の向上、教員の資質向上などの成果とともに、今後の実践における諸課題もみえてきた。



CASE

3

神奈川県立生田高等学校

## 21世紀型学習スキルの育成と実践

問題解決型協働学習により効果的にICTを利活用できる能力を育成



生徒自身がICTを道具として活用するだけでなく、どのような場面での活用が効果的か、あるいは不向きか、ということを考える力までを育成することを研究の目的とした。またICTを利活用した「問題解決型共同学習」が、生徒の学習意欲、コミュニケーション能力の向上に有効であること。さらに独自の学習モデルを確立し、多くの実践事例を蓄積できたことも、本研究の成果である。



CASE

4

岐阜県立郡上特別支援学校

## 卒業後の自立まで見据えたキャリア発達を促すICTツールの開発

タブレット端末を用いた支援アプリの開発と実践学習



本校の作業学習「喫茶サービス」の授業モデルは、事前学習、喫茶営業、事後学習の学習展開である。直感的操作が可能な接客支援アプリの活用により対人スキルが向上。360度カメラにより、自己の接客姿勢を客観的に把握。また対話が深まるWEBカメラの動画により協働作業を認識するなど、ICT機器の活用は達成感を得て自己有用感を高めキャリア発達を促す効用があることが実証できた。



## 助成の3つのポイント

1年間で50万円の助成  
ICT環境や校内研究が充実



1年間の研究に対して50万円を助成します。実物投影機を全学年に揃えたり、デジタル教科書を購入するなど、ICT環境を大幅に充実させることができます。また、ICT先進校の視察や紀要の充実などにより校内研究の活性化を図ることも可能です。

2年間で150万円を助成する「特別研究指定校」制度もあります。

学校間の交流をサポート  
交流による研究内容の深まりを支援



助成金贈呈式などで他校と交流して、自校の取り組みの参考にしたり、研究を進める上での課題を共有するなど、研究内容がより深まるように支援します。

教育現場に精通した  
第一線の研究者からの  
的確なアドバイス



助成金贈呈式では、大学の研究者からのアドバイスを受けることができます。研究を進める上での留意点や学校全体に波及させる際の方法などについて、幅広い知識を得ることができます。

また、「特別研究指定校」は、大学の研究者による訪問アドバイスを2年間の助成期間中に計6回受けることができます。



## 選考委員から



赤堀 侃司  
東京工業大学名誉教授

申請書作成も実践研究もエネルギーが必要ですが、得られるものは大きいですから、ためらわずにチャレンジすることが大切です。全国の学校が持っている実践の宝を共有し、仲間を増やしていくための第一歩を、この応募から踏み出して欲しいと思っています。

## 広島市立藤の木小学校 島本校長先生からのコメント



藤の木小学校は、2010年度に総務省フューチャースクールとして整備された一人一台タブレットPC環境下で、ICT活用研究に継続して取り組み、2019年には活用10年目を迎えます。2014年3月に国の指定が終わり、その後の研究継続の大きな支えとなったのが財団の助成です。

アドバイザーの先生の継続的なご指導や、成果報告会等で、教職員は視点を極め、実践を深め、力量を伸ばしました。2018年秋、2冊目となる出版を果たすことができたのも、助成の成果に他なりません。パナソニック教育財団の助成制度は、学校経営充実の頼もしい味方です。

